

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 30 日現在

機関番号：87106

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2012～2014

課題番号：24720056

研究課題名(和文) 中国・山東省荷澤出土の螺鈿箱(高麗経箱)に関する調査研究

研究課題名(英文) Research and study of the raden box (Goryeo sutra box) excavated from China, Shandong province, Heze

研究代表者

川畑 憲子(KAWABATA, NORIKO)

独立行政法人国立文化財機構九州国立博物館・学芸部企画課・主任研究員

研究者番号：00463505

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,500,000円

研究成果の概要(和文)：2010年秋、中国山東省荷澤で発見された木船の中から、13世紀後半から14世紀にかけて制作されたと想定される漆器や陶磁器、玉器、金属器、硬貨など110点を超える遺物が発見された。本研究では、これら遺物のうち、特に螺鈿箱(高麗経箱)に焦点をあて、科学調査を通してその用いられている漆の生産地や樹種、木地構造の詳細を明らかにした。また、同船内遺物や伝世品との比較調査を通じて、この経箱が制作、奉納されて間もなく流出した可能性があることを明らかにした。

研究成果の概要(英文)：Over 110 pieces of artifacts were found in a wooden ship discovered in China, Shandong province, Heze. The objects were made around the late 13th century to 14th century, and include lacquer wares, ceramics, jade wares, metal wares and coins. Scientific research was done on these objects, with a focus on the raden box (Goryeo sutra box). In which, details about the lacquer production site, tree species and wood grain structure are found. Comparative study of these artifacts with objects passed down from past generation revealed the possibility that the sutra box flowed out shortly after it was made and dedicated.

研究分野：漆工

キーワード：螺鈿

1. 研究開始当初の背景

(1)2010 年秋に、中国・山東省荷澤の工事現場において、一艘の木船が発見された。元代のものと思われる沈没船遺物には螺鈿箱(高麗經箱)の一部を含む漆器や陶磁器、玉器、金属器、硬貨など117点の遺物が見つかった。そこで私は、遺物が保存されている荷澤市博物館に赴き、これら出土遺物について詳細な調査をおこなった。

(2) この発見は高麗螺鈿研究にとってきわめて重要なものであったが、当時、沈没船遺物への関心は多く陶磁器に向けられており、漆器についてはあまり注目されていなかった。

(3)国内および海外では、螺鈿をとりあげた展覧会は数多く開催されており、高麗螺鈿についても、伝世品を中心とした研究がなされてきている。しかしながら、もともと高麗螺鈿の伝世品は希少であり、なおかつ文献史料も少ないため、形状・文様を観点とした相対的な編年研究が主で、ながらくその枠を脱していないように思われる。

(4)このような背景から、沈没船遺物のうちでも特に螺鈿箱(高麗經箱)の出土片に焦点を当て、確実な出土例として科学調査をおこない、他の遺物や伝世品と合わせて検討することにより、高麗螺鈿の制作技法や編年、制作地などについて、新たに検討を加えることができるのではないかと考えるにいたった。

2. 研究の目的

本研究は、出土した高麗經箱を研究対象とするという点に特色がある。いまだ土がついたままの断片は、後世修理がほどこされた伝世品と違い、制作当初に近い状態である可能性が非常に高い。そこから得られる情報は、高麗經箱の制作技法を解明するためのきわめて重要なものとなる。

この貴重な遺物を用いて考証しうる問題は多岐にわたるが、そのうち本研究期間においては、以下の3点を当面の研究課題として設定した。

(1)出土・高麗經箱の調査

出土漆器片についてX線CT撮影や材料分析、漆塗膜のストロンチウム同位体分析、樹種判定などの科学調査をおこなうことにより、用いられた漆の生産地や樹種などの用材、構造を解明し、制作地や制作技法について推定した。

(2)伝世・高麗經箱および関連漆器の調査

国内外に伝世する高麗經箱および関連の漆器について、詳細な作品調査をおこなった。とくに、高麗螺鈿については經箱のみならず

他の器種や、高麗螺鈿の一部を用いた改装漆器についても調査の対象とした。また、同沈没船遺品のうちに見つかった中国製漆器についても、元時代の作品を中心に広く調査の対象とした。

(3)制作地・制作年代の再検討

(1)(2)の調査で得られた詳細なデータや画像をもとに、既知の文献史料についての理解精度を高めるとともに、新たな史料を探索した。また、他の遺物や同時代資料との比較から、高麗螺鈿の制作地や制作年代について再検討を試みた。

3. 研究の方法

本研究においては、研究目的にあげた(1)~(3)の課題のうち、(1)(2)は実物資料を対象とした調査、(3)は(1)(2)で得られたデータについて文献史料や他の作品資料をもとに検討した。

4. 研究成果

(1)出土・高麗經箱の調査

調査結果の一部を記す。

出土片の大きさや文様から、出土螺鈿箱のものの姿にもっとも近いのは重要文化財「菊唐草螺鈿經箱」(東京国立博物館)であることがわかった。

漆については、ウルシオールが検出されたことから、日本・中国系の漆を用いていることがわかった。また、ストロンチウム同位体比から中国・朝鮮半島系の漆を用いている蓋然性が高いことがわかった。

木地の樹種については、針葉樹のコウヨウザン(広葉杉)であることができた。

金属部分については、蛍光X線分析から真鍮であることがわかった。

木地構造については、目視から、木地取りの方法を確認した。

は明治大学・本多貴之氏に調査を依頼した。

は東京文化財研究所・北野信彦氏のご協力のもと、伊藤隆夫・京都大学名誉教授に鑑定を依頼した。

は九州国立博物館・赤田昌倫氏に調査を依頼した。

(2)伝世・高麗經箱および関連漆器の調査

調査成果の一部を記す。

研究助成年度以前(2011年度)の高麗螺鈿

経箱の調査

- ・東京国立博物館（重要文化財「菊枝螺鈿経箱」および重要文化財「菊唐草螺鈿経箱」ほか）
- ・北村美術館（重要文化財「菊唐草螺鈿経箱」）

2012 年度の調査

- ・アメリカにおける調査

ニューヨーク・メトロポリタン美術館にて高麗および李朝螺鈿器のほか、中国製螺鈿器の調査をおこなった。とくに高麗螺鈿（洲浜形合子）は遺品が少なく、実見のうえ調査できたことは有意義であった。

あわせてアーヴィング・コレクション中の中国製無文漆器、彫漆器についても調査をおこない、担当学芸員と意見を交換することができた。

- ・中国における調査

上海博物館、揚州博物館、鎮江博物館、常州博物館、江陰博物館が所蔵する出土・在銘の中国製漆器を中心に調査をおこない、多くの知見を得ることができた。また、元代陶磁器や金工の展示を見学、沈没船遺物と比較することで、遺物への理解をより深めることができた。

また、香港では、香港芸術館、香港中文大学付属美術館が所蔵する朝鮮半島および中国製漆器の調査をおこない、多くのデータを得ることができた。

いずれも所蔵機関の担当学芸員と作品を前に意見を交わすことができ、さらに現地の情報を得ることができた。

2013 年度の調査

- ・国内における調査

名古屋・徳川美術館、東京・根津美術館、東京・東方漆芸研究所、東京国立博物館、東京・個人コレクション、京都・個人コレクションに所蔵される高麗および李朝螺鈿器、中国製漆器について作品調査をおこなった。とくに研究計画時に未発見であった新出の高麗螺鈿器（個人蔵）を調査できたことは有意義であった。この調査をもって、研究計画にあげていた国内所蔵の高麗経箱については、調査を完了した。

- ・アメリカにおける調査

前年度に続いて、メトロポリタン美術館で作品調査をおこなった。今回は、前年度、展示中のため実見できなかった作品を中心に調査をおこなった。また、ニューヨーク・個人コレクションの高麗および李朝螺鈿器、中国製螺鈿器について調査をおこなうことができた。また、現地の美術史研究者と意見交換することができ、情報を得ることができた。

2014 年度の調査

- ・中国および台湾における調査

北京故宮博物院が所蔵する中国漆器コレクションについて調査をおこなった。とくに南宋～元代の作品を中心に調査をおこない、中国製漆器についての理解をいっそう深めることができた。

また、台湾では台北国立故宮博物院および鴻喜美術館、個人コレクションについて調査をおこない、螺鈿器のほか無文漆器や彫漆器など幅広い収蔵品を実見した。とくに個人コレクションには、かつて日本に伝来していたが、所在がわからなくなっていた作品が多く含まれており、貴重なデータを得ることができた。

- ・イギリスにおける調査

ロンドン・大英博物館に所蔵される高麗螺鈿（経箱および洲浜形合子）中国製漆器について調査をおこなった。とくに同館の主要な漆器コレクションであるサー・ハリー・アンド・レディ・ガーナー寄贈品は、ヴァラエティに富んでおり有意義な調査となった。また、ロンドン・ヴィクトリア・アンド・アルバート美術館、ロンドン・個人コレクションに所蔵される李朝螺鈿器や中国製漆器についても調査をおこなった。さらに、今回の調査では訪問することができなかったものの、現地の美術史研究者からイギリスおよびヨーロッパに所在する関連資料についての情報を得ることができた。

- ・国内における調査

東京国立博物館、東京・五島美術館、京都・個人コレクションで作品調査をおこなった。おもに李朝螺鈿器および中国製漆器の調査をおこなった。新出作品についても調査することができ、貴重なデータを得ることができた。

(3)まとめ

今回の調査研究により、荷澤で発見された沈没船から見つかった螺鈿箱について、用材や制作技法について、科学調査から貴重な新知見を得ることができた。これらについてはさらに考察を必要とするため、ここではその一部を報告するにとどめるが、今回得られた成果は高麗螺鈿研究にとってきわめて重要なものとなることは明らかである。研究期間終了後も引き続き、結果について考察を重ねて発表していきたい。

また、螺鈿箱の制作年代については、同じ沈没船で見つかった他の漆器や陶磁器、玉器、金属器、硬貨、とりわけ紀年銘入り遺物から、研究開始当初 13 世紀と推定していたが、本研究において取り組んだ伝世・高麗螺鈿および関連漆器の調査からみても、その蓋然性は

高いと考える。

制作地について、材料の生産地から推測を試みたものの、材料の生産地と螺鈿箱の制作地が同一でないことも考えられるため、明確な結論を出すには至らなかった。しかしながら、沈没船の性格が商船だったであろうことを考えれば、こうした螺鈿箱がつくられて間もない時期に流出していたと推測しうる。

副次的な成果としては、国内外で実施した作品調査から、世界各地に点在する朝鮮半島製漆器および中国製漆器の詳細なデータや画像を得て、それらを一覧しうるデータベースを作成することができた。ここには所蔵先の情報や画像などが含まれるため、一般に向けての公開は難しいものの、今後の研究に大いに活用できるため、さらなる充実を図っていきたい。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

とくに本研究課題に限らず、調査研究の成果に依ったものを記す。

〔雑誌論文〕(計 0 件)

〔学会発表〕(計 2 件)

①小池富雄・川畑憲子・松本達弥・鳥越俊行「韓国新安沈船遺物の中国宋時代の彫漆」、
「東アジア文化遺産保存国際シンポジウム」、
K-Hotel 教育文化会館(大韓民国)、2013年9月。(報告書 p220-221)

川畑憲子「日本でつくられた倣中国製彫漆器」、九州国立博物館特別展「台北 国立故宮博物院 - 神品至宝 -」開催記念国際シンポジウム「中国皇帝コレクションの意味 工芸における復古と革新」、九州国立博物館、2014年10月。

〔図書〕(計 1 件)

川畑憲子「乾隆帝と永楽・宣徳漆器」および作品解説、東京国立博物館・九州国立博物館特別展図録『台北 国立故宮博物院 - 神品至宝 -』、p272-273 および p352-353、2014年6月。

6. 研究組織

(1)研究代表者

川畑 憲子 (KAWABATA NORIKO)

独立行政法人国立文化財機構・九州国立博物館・学芸部企画課・主任研究員

研究者番号：00463505

(2)研究分担者

()

研究者番号：

(3)連携研究者

()

研究者番号：